

平成20年度第3回 御菌地区地域審議会概要

- 1 開催日時 平成21年2月6日（金）午後7時00分～午後8時30分
- 2 開催場所 御菌総合支所 学習室
- 3 議事内容 ① 地域の現状と課題及びその具体的解決案について
② その他
- 4 出席委員 一蝶哲司委員、浦崎恵子委員、中北好美委員、中西 源委員
中村 正委員、西村 正委員、西脇英一委員、平野あけみ
藤原ひろみ委員、宮本隆生委員、森 真吾委員、山本健司委員、
- 5 欠席委員 戸上米子委員、中村浩一委員、山崎 力委員
- 6 出席職員 総合支所長、地域振興課長、地域振興担当職員
- 7 議事概要

会 長

お寒い中を、ご参集いただきましてありがとうございます。
本日の出席委員は、12名であり過半数に達していますので本日の
審議会が成立していることを報告します。

本日の議題については、前回の審議会でも審議をいただきました
が御菌地区の現状と課題について抽出していただくとともに、その
解決策についても提案をいただきたいと思います。
前回の審議会において、次回の審議会までに課題を考えていただく
ようお願いさせていただいていますので、本日は、順番に発言を
求めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委 員

私のほうからは、老人に関することについて意見を言わせていた
だきます。合併以前は、ハートプラザみそのには、風呂があり高齢
者の憩いの場となっていたのが、老朽化などのため廃止をされてい
ます。現在、御菌町には65歳以上の一人暮らしの高齢者が多数い
ると思います。専門家の意見によると、1日に10人以上と話しを
すれば痴呆予防に非常に効果があるそうですので、高齢者の憩いの
場作りを進めていってほしい。また、各種補助金についても削減さ
れる一方であり行政と住民との信頼関係が崩れていっていると思
いますので、再度、補助金の復活を検討していただきたい。

会 長

ありがとうございました。それでは、以後は順番に意見をお願い
いたします。

委 員

私の意見としては、個別の事柄についてではなく、バランスの問題
があると考えます。サービス水準をすべて良い方向へ揃えていく
ことは困難だとは理解するが、すべて標準化しようとする必要はな
いのではないか。それぞれの地域で、特色がありすべてを同一の色
にしようとするのではなく、それぞれのオリジナル性は残しながら

市として調和がとれればいいのではないか。

そういう意味で、御菌町としては先ほど意見のあった老人福祉と合併前より力を入れていた学校教育について、標準化するのではなく特色を残していったほしい。現在の市の状況を見ると、たとえば学校施設について、順番に新しく建て替えているようであるが、後から建設する学校は、技術の進歩や社会情勢などがあり以前に建設した学校より施設が良くなって当然と思われる。しかし実際は、以前の学校に横並びの内容となっているのではないか。そうするといつまで経っても良くなっていかないのではないか。ほんの一例であるが、市の行政全般に言えることと思う。

委員 私は、最近では地域の子ども会などの活動に参加する機会が少なく合併後の状況を耳にすることがあまりないが、自分の子ども達の状況を考えると今まで小回りが利いていたのがあまり利かなくなっただと感じている。学校給食についてであるが、学校内に立派な施設があるにも関わらず、活用をすることなく財政的な面だけで給食センターへ移行しようとしていると感じている。全市的に横並びにしなければならぬと考えるのではなく特色を残すことを考えてほしい。市内には、色々な祭りがあり地区ごとに特色があるように、行政においても、地区ごとに特色を生かしてもいいのではないか。

委員 私も、先ほどの委員の方々と同じように御菌らしさが失われていると思われる。行政側が、良い面も悪い面も市内を均一にしなければという意識が強すぎるのではないか。

委員 私は、御菌町内の介護施設に勤務している関係上、老人福祉の充実を望んでいる。特に御菌町の課題ということではないが、市として老人や子ども達が、安心して暮せるようなまちづくりを進めてほしい。

委員 先日も、学校給食で食材に問題があったと聞いているが、最近では、食べ物に関してすごく関心が高くなっていると感じている。食の安全が叫ばれている時代であり二見町や小俣町でも見られる農産物の販売などを行う道の駅などを検討してはどうか。よく周りの人から御菌町は、臥竜梅などの名所旧跡はあるが、人が集まる施設が無いと言われるので、道の駅を建設することにより地域住民の交流や観光客の誘致が図れるのではないか。

委員 合併をして非常に窮屈になったことが多いと感じている。合併後、定年を待たずして退職していく旧御菌村の職員が多くいると聞いている。人間関係が上手くいかない場合もあると思われるが、先ほどから意見が出ているように何事も標準化しなければならないという行政の方針が、旧の御菌村で行政に携わっている者にとって

は、非常に窮屈と感じているのではないか。

学校施設なども、旧御薊村は他とのバランスなどを考える必要がなかったが、旧伊勢市は、数十校あるため何事においても標準化を考える必要があることはある程度は理解できるがあまりにも横並びの意識が強いのではないか。最近、旧御薊村の施設に関して維持管理が行き届いていないという意見を良く聞くことがある。旧御薊村は、山などがなく緑が少ないと考えていたため、公共施設に植木などの緑を多く設置していたと聞いている。財政的な面からも多少のことは理解できるが、何度も言っているように標準化しなければならないとの考えから、せつかく作った施設が粗末に扱われているように感じている。私の意見としては、今まで培ってきた御薊町の公共施設を適切に管理して緑豊かな田園風景を維持して欲しい。

委員 山田奉行所記念館は、御薊の文化・歴史伝統を伝える大切な施設であると思われるが、施設への進入道路が狭いため、訪れる人が不自由しているように感じている。今後も、広くPRし来場者を増やしていくには、進入道路の整備を考えてもらいたい。

委員 先ほども、意見があった観光客や住民の交流の場として活用ができる道の駅について、検討していただけたらどうか。私も以前から、津方面から伊勢へ戻ってくるときに、道の駅が無いことを感じていたので国道沿道にあれば良いのではないか。

それと日赤の移転はいつごろになるのか。また、その後の跡地利用について何か考えがあるのでしょうか。

事務局 2011年頃に移転すると聞いている。また、跡地利用については、昨年度の伊勢市総連合自治会でも市長への要望事項として質問されたようである。市としては、土地所有者である日赤において跡地活用の検討がなされるものと考えており、基本的には、土地の所有者である同病院の意向が尊重されるべきものと考えています。しかし、市としても跡地がどのようになるかということについては、地域の皆さんの生活環境の保全等公益上の観点から、病院とも連絡を密にしながら情報の収集に努めるとの回答をしています。

委員 今日、御薊地区の課題について話し合うとのことであるが、課題があるということは、結局は不満があるということではないか。合併前と比べてあまりにもサービスが低くなっていると、皆さんが感じていること自体が、御薊地区の課題ではないか。何か、不満を持っているということが、悪いことのように言われているようで仕方がない。

私が感じているのは、たとえば物質的な課題については、普通は何かしてほしい、何か足りないなどの不満が考えられるが、皆さん

もそうであるように、結局は合併前に比べて質が落ちていることに不満があるのではないか。それぞれの旧市町村が、前のほうが良かった、あっちのほうが良い、自分のほうは悪いなどの不満を持っていると感じられ組織としてお互いの関係を悪くしていることが課題であり一体感を阻害しているように感じている。

今日の議題でもあるように、地域の課題を見つけてその解決方法として、それぞれが競争のように新しい事業などを求めたら、結局は、新たな地域間の不満が出てきて、新しい伊勢市としての気持ちが生まれてこないのではないか。

先ほどの学校施設のことについて意見があったが、私も同感であり、旧伊勢市の小学校が新築されたときに、今の時代だから空調が設置されていると思っていたが設置する用意はあるが、現実には、設置されていないと聞いて、折角新築するのに空調も設置しないとは何故なのかと感じた。それも、先ほどから皆さんが言っているとおり低い基準にあわせたのではないか、旧町村は、空調設備があるのだから、当然1校ずつでも整備していくと考えるのが普通ではないか。補助金についても無くなっていくばかりで、合併前から比べるとすべての質が低下しているとしか考えられず、そういう不満があることが課題であり、合併前の水準に少しでも近づけていくことが解決策であると思われる。住民は、何も新しいことは望んでいなく以前の水準に戻してほしいと感じているのではないか。

不満ばかりを言ってもしょうがないので、一つ考えてみると、昨年意見も言ったが、地域に根ざした特色ある地域・学校づくりを私はすごく望んでいる。今日の資料の前年度の意見書の回答にあるが、「独創的な教育活動推進事業」を御菌中学校は平成18・19年度に実施しているが、平成20年度は御菌小学校・中学校ともに申請がない状況と報告されている。非常に残念な状況であると思うが特色ある学校づくりを進めるのであれば、単発的な事業でなく地域の住民と学校が一体となって作り上げる方法を教育委員会が考えて積極的に働きかけてほしいと思う。

財政的な面だけでなく、学校の雰囲気も市内の学校にあわせるという考えが強くあり特色を出そうとする雰囲気がないのではないか。

具体的に何をしていけばいいかと考えると、これも今日の資料にある小俣町の回答に「コミュニティスクール」の調査研究を開始と記載されているが、コミュニティスクールとは、地域住民が学校運営に積極的に関わって地域で特色ある学校づくりを進めていく手法であると思うので市としても積極的に取り組んでほしい。

なお、市の取り組み状況について、後日でも報告をお願いします。

委員 私も、学校のことについて関心があるので、いつも学校についての意見を言わせてもらっているが、学校の2学期制についても、旧伊勢市の学校が最初に導入したため、市主催の陸上競技会などの行事が上手く開催できるように、仕方なく御菌にも導入されたように感じているし、自分の子どもの状況を見ていると2学期制のメリットがあまり感じられない。給食に関しても、以前は食育に力を入れていたと思うが、合併後は質が低下しているように感じている。

先ほどの意見にもあったとおり、特色ある学校づくりのために、教育委員会が積極的に各学校へ働きかけていくとともに、子ども達が安心してのびのびと学べる学校となるように環境整備を進めていくことを望んでいます。

会長 ありがとうございます。委員の皆様から、いろいろと貴重な意見をいただきましたが、御菌地区の課題について整理していきますと、旧御菌村の良さを残しながら特色ある地域づくりを進めてほしいという意見が多かったようですが、市長への報告については、具体的な解決策についても報告することとなっていますので、漠然とした内容ではなく、ある程度分野を絞っていきたいと思いますが、皆様のご意見はいかがでしょうか。

委員 先ほどからの意見を聞いていて感じたことだが、市民は、合併前の市町村ごとの概念から抜け出せていないようである。そのため、それぞれにサービスが低下したとか、合併調整方針と違うなどの不満がでていのではないかと。一日でも早く新市として一体感が持てるように努力が必要ではないか。

委員 目先の予算のことに対して不満などがでていようだが、将来的にどうしたいかをよく話し合う必要があるのではないかと。学校施設なども、他校にないため活用することを遠慮して結果的に宝の持ち腐れになっていくような気がする。今ある施設は、どんどん活用していき特色ある学校教育を行ってほしい。すべてを同じ施設にする必要はなく、それぞれに必要なものは違うと思うので地域ごとによく話し合って本当に必要な施設の充実を望みます。

委員 新市として、全域にいろいろな事業を進めていこうとすると非常に無理があり各地域に不満などが出てくると思うので、旧3町村単位と旧伊勢市も各学校単位などで、ある程度自由に使える予算を配分し地域住民が話し合って使い道を決めていくことはできないのか。そうすれば、地域間の不満などがでないのではないかと。

また、土地利用計画においても新市としてどのような街づくりを行うかの明確な計画が示されているのでしょうか。

事務局 土地利用の計画については、合併前より旧3町村も含めた都市計

画となっていたが、旧町村ごとに計画を策定し伊勢都市計画としての全体計画が策定されていたため、新市となり市全域を考えたの計画を策定中となっている。

また、予算のことについては、総合支所においても、ある程度の予算を持ち御菌町固有の事務などを行っている。また、総合支所の組織が縮小されたが、寄せられた要望などは本庁の各課へ伝えて対応できる体制となっている。

委員 御菌町も含めて旧3町村は、合併後もそれぞれの区域単位でしか物事が考えられないのではないかと。それぞれの地域においても、住宅地域や農業地域などがあり生活様式や考え方も違うと思うので、これからの時代は、旧来の区域にこだわらずに旧伊勢市も含めて地域の再編が必要になるのではないかと。そのうえで、それぞれの地域が地域の実状に合った特色ある街づくりを進めていけば、市全体も良くなっていくのではないかと。

会長 先ほどからの意見を聞いていると、合併後もまだそれぞれの地域のこだわりがあり新市として心の合併に至っていないと思われまます。合併したのだから、不満はあるだろうが前へ進むしか仕方がないのではないかと。御菌町は、手厚く保護されていた事業や施設が多くあり、新市として標準化されることに対して不満を感じているのではないかと。ある程度の標準化は仕方がないが、せっかくある施設を無駄にすることなく適切に維持管理をして活用を図っていくとともに、文化伝統を守ってほしいという意見が多いようである。

また、住民の交流の場や観光客の誘致を図るための道の駅などの建設についての意見がありましたが、御菌村の時代にも計画があったように記憶しているのだが。

委員 国道沿道に建設するよう計画をしたが、多額の費用が必要になるということで実現はしなかったようである。

委員 合併の調整方針で、当分の間というのは5年間のことで平成22年度には、合併後のいろいろな事業が整理されると思われる。そこからが、新市として本当の意味でのスタートになるのではないかと。特に、不況が叫ばれて財政的に厳しい時代であり、合併調整方針を上回るスピードで事業の廃止などが進むと思われるため、住民の自主的な活動によりいろいろな事業を守っていく必要がある。その意味で、文化協会などは、旧伊勢市は無かったため参画していないが、旧3町村ごとの文化協会を統合し自主的に活動できる環境を整える準備をしている。

会長 それでは、いろいろな意見をいただきましたが、時間も経過していますので、次回の会議までに事務局と相談し本日の意見を取りま

とめてから項目を絞り込んで、大まかな方向性をお示ししたいと思いますのでご了承願います。

それでは、その他の事項で事務局から何かありませんか。

事務局

報告が遅れましたが、合併調整室長からの「答申及び意見の取扱いについて」という文書を本日の資料と一緒に配布させていただいています。内容としては、各地域審議会の市長への答申、御菌・小俣地区の意見書の回答、正副会長会議での質問事項の回答となっています。内容をお読みいただいて、ご意見等がありましたら地域振興課までご連絡をお願いします。

委員

この資料を見ると、7割以上が教育関係ではないか。旧3町村が、教育環境の充実を図っていたのに対して、旧伊勢市には欠けていたということではないか。市当局も、このことを真摯に受け止めて、次代を担う子どもたちの教育環境を充実していただきたい。

旧3町村は、それぞれ学校教育の予算は聖域であり他の予算は削っても、教育予算を削ることはなかったため、学校環境の充実が図られていたのではないか。合併後は、学校数も多くなり標準化されることは理解できるが、少しでも全体が良くなるように教育予算の充実を強く望んでいます。

事務局

今までのような1村1校ではなく市内には数多くの学校があるため、どうしても標準化することが基本となってしまいうようである。本日の皆さんの意見については、少しでも教育環境の充実が図れるように教育委員会に報告させていただきたいと思います。

会長

他にご意見等は、ございませんか。

ないようですので、本日の審議会はこれで終了させていただきます。長時間にわたり審議していただきありがとうございます。

終了